



Kanden Investor Day 海外エネルギー事業

2026年10月5日

1. 海外エネルギー事業の目指す姿

・・・ P. 2

- 資本効率を重視した規律ある成長投資
- 財務計画

2. 事業概要

・・・ P. 6

- 当社海外エネルギー事業の歩み
- プロジェクト一覧
- コンセプト
- 事業ポートフォリオ

3. 経営計画の達成に向けて

・・・ P. 11

- 事業戦略
- 具体施策

○ 海外エネルギー分野に、26-28年度で1,000億円を成長投資

資本効率を重視した規律ある成長投資

経営の深化と変革

- 収益性や事業リスク、事業期間等を考慮した厳格な投資規律のもと、最適なファイナンス手法を選択し、共同開発・キャピタルリサイクル等も活用することで、利益貢献の早期化と資本効率の向上を実現する

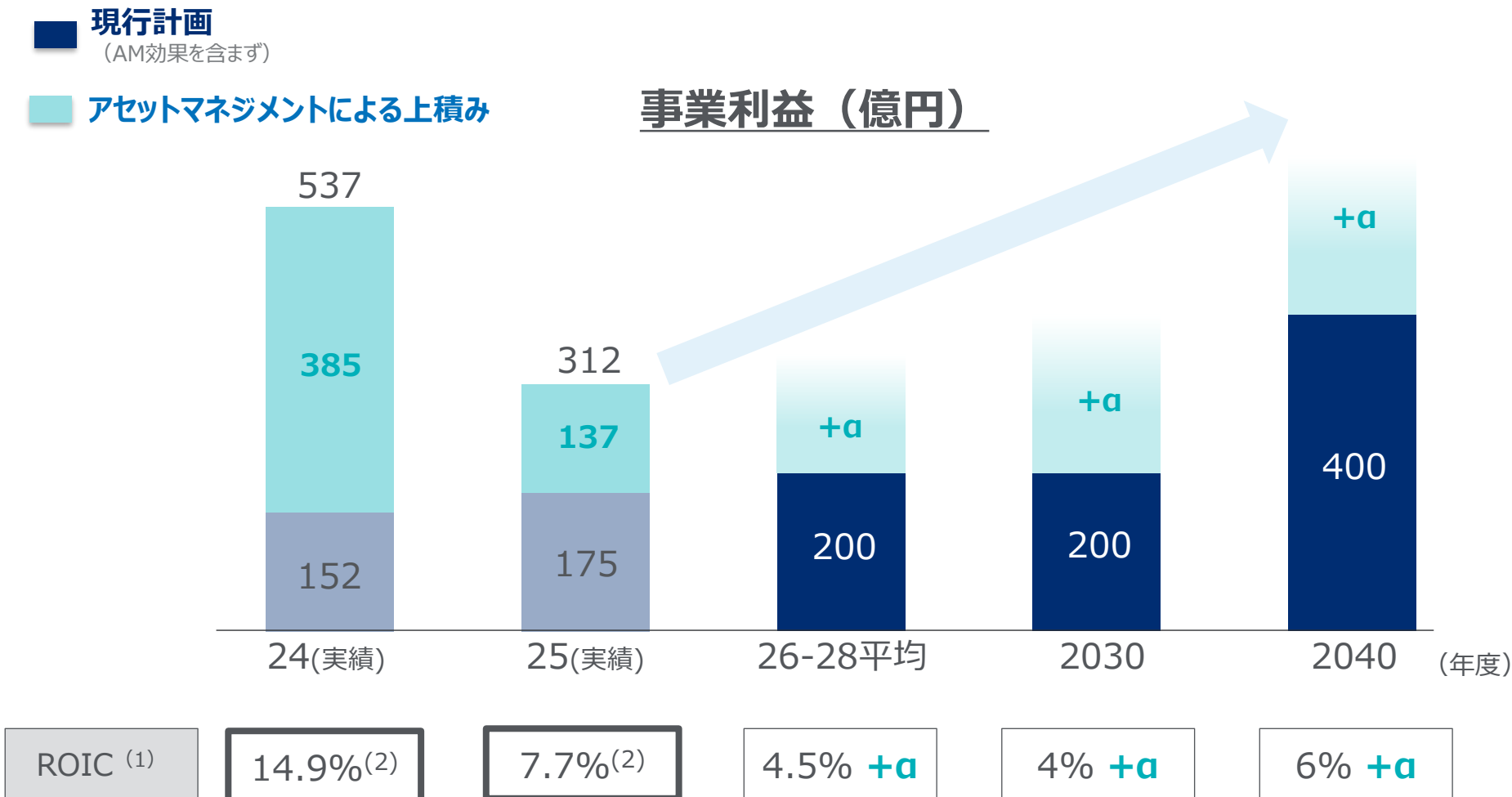
26-28年度における成長投資（累計1.0兆円）

成長投資の投資効果イメージ⁽¹⁾



注記: (1) 26-28年度における成長投資の投資効果イメージを示すものであり、各事業全体の資本効率を示すものではない

- 2040年度に、アセットマネジメント除きの事業利益400億円（現状の約2倍）、ROIC6%をベースに、**資産入替の継続実行により、高いROICを追求**



注記: (1) ROIC = 税引後事業利益 ÷ 投下資本 (期首・期末平均)

(2) 売却益や一時的な為替影響を除いた場合、24年度ROIC : 4.8%、25年度ROIC : 4.7%

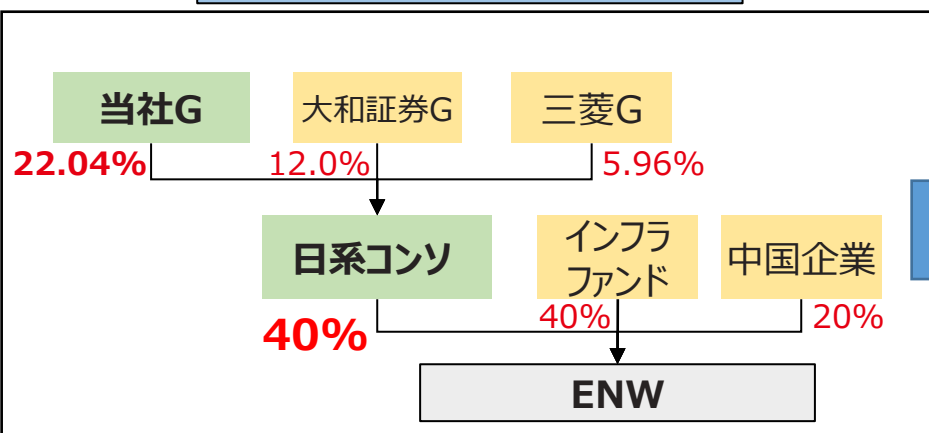
資産入替の具体例 ～ENW社株式の一部売却～

- 2019年、英国中西部で配電事業を行うエレクトリシティ・ノース・ウエスト（ENW）社の一部株式を取得。同社はマンチェスター・カンブリア地域で約500万人の顧客にサービスを提供。

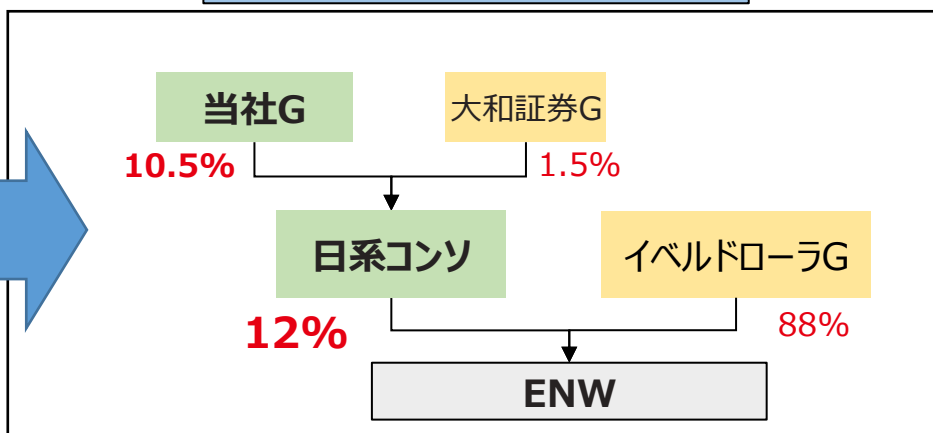


- 事業価値や将来性、戦略的意義・資本効率等を総合的に勘案し、2024年度にENW社の**持分を一部売却（出資比率22.04%→10.5%）し、253億円の純利益を獲得。**
- 保有・売却を適切に判断するとともに、より良い案件への投資を通じて、ポートフォリオ全体の価値向上に取り組んでいく。

株主構成（部分売却前）



株主構成（部分売却後）



1. 海外エネルギー事業の目指す姿

・・・ P. 2

- 資本効率を重視した規律ある成長投資
- 財務計画

2. 事業概要

・・・ P. 6

- 当社海外エネルギー事業の歩み
- プロジェクト一覧
- コンセプト
- 事業ポートフォリオ

3. 経営計画の達成に向けて

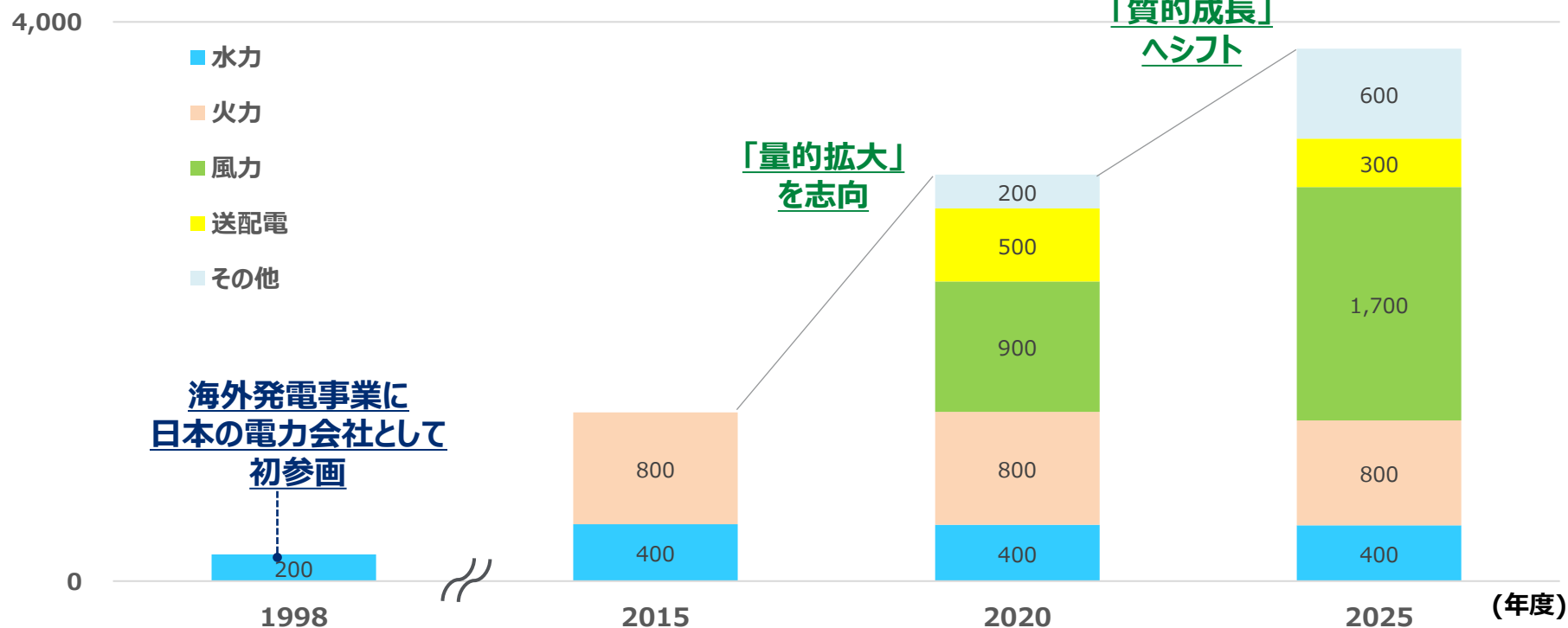
・・・ P. 11

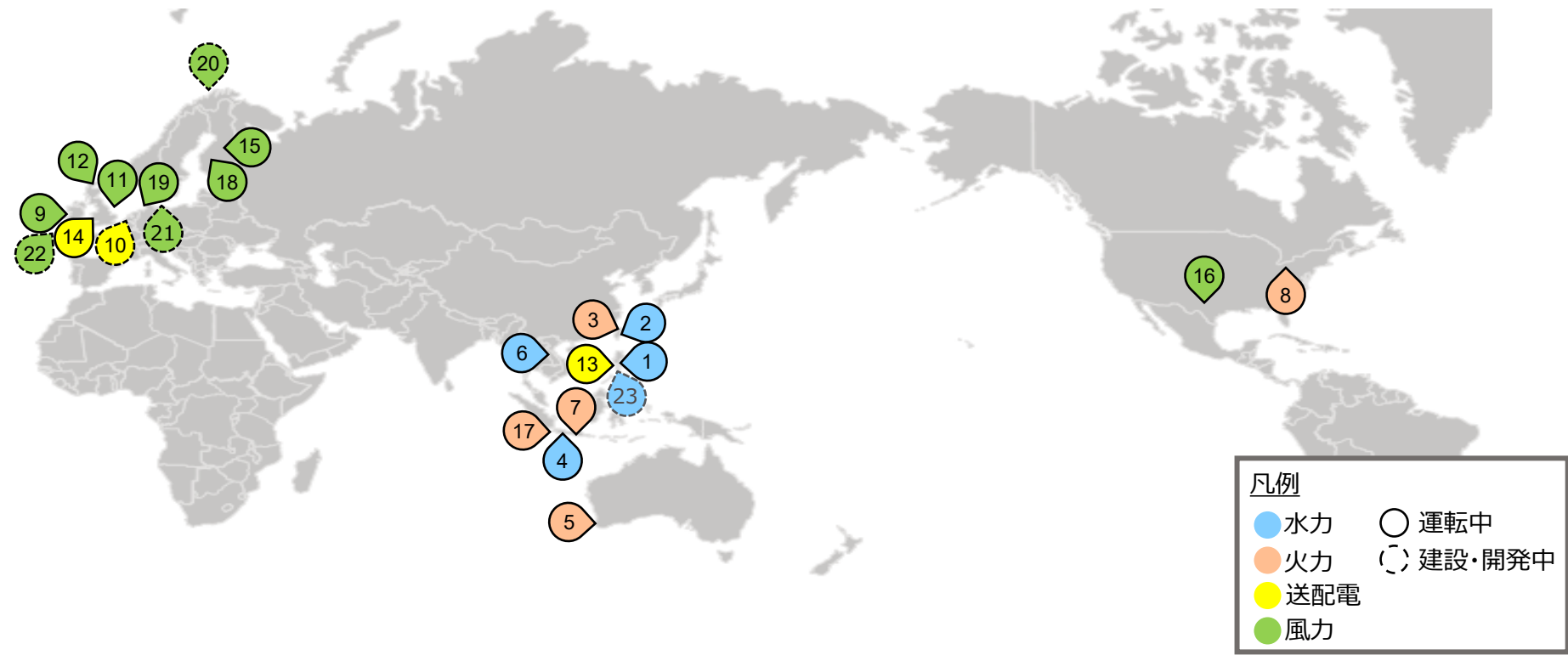
- 事業戦略
- 具体施策

当社海外エネルギー事業の歩み

- 1998年にフィリピン共和国のサンロケ水力発電事業に参画し、**日本の電力会社として初めて海外の発電事業に進出**
- 2016年から、**投資対象や地域を広げ、「量的拡大」を志向**
2020年頃から**「質的成長」にシフトし、より収益性の高いポートフォリオ構築を志向**
- 現在、**11カ国23プロジェクトに参画**
 - ・発電事業：10,000MW(グロス)、当社持分容量2,500MW
 - ・送配電事業：3ヶ国3プロジェクトに参画

【投融资コミット額（億円）】※数字は丸め表記



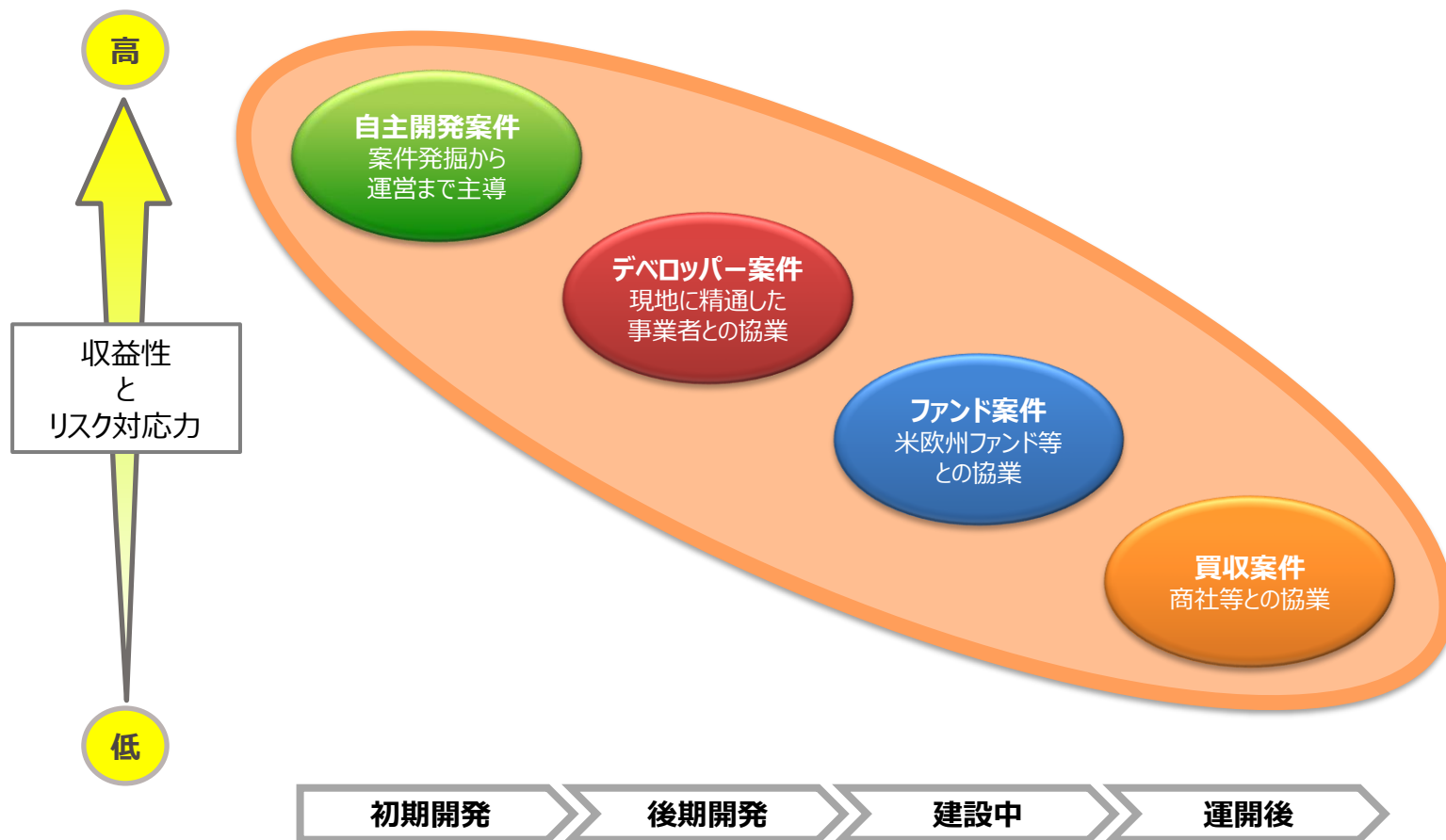


No.	件名	国名	参画	容量 [万kW]	当社 持分比率	持分容量 [万kW]
1	サンロケ水力	フィリピン	1998	43.5	50.0%	21.8
2	名間水力	台湾	2005	1.7	24.0%	0.4
3	国光火力	台湾	2006	48.0	6.0%	2.9
4	ラジャマンダラ水力	インドネシア	2012	4.7	49.0%	2.3
5	ブルーウォーターズ火力	オーストラリア	2013	45.9	50.0%	23.0
6	ナムニアップ 1 水力	ラオス	2013	29.0	45.0%	13.1
7	タンジュン・ジャティ B 5&6 火力	インドネシア	2015	214.0	25.0%	53.5
8	ヒッコリーラン火力	米国	2017	100.0	30.0%	30.0
9	エヴァレイアー陸上風力	アイルランド	2017	22.3	24.0%	5.4
10	ノコネット英独連系線	英国・ドイツ	2018	—	17.5%	—
11	トライトンノール洋上風力	英国	2018	85.7	16.0%	13.7
12	モーレイイースト洋上風力	英国	2018	95.3	10.0%	9.5

No.	件名	国名	参画	容量 [万kW]	当社 持分比率	持分容量 [万kW]
13	ニュー・クラーク・シティ 配電・小売	フィリピン	2019	—	9.0%	—
14	エレクトリシティ・ノースウエスト配電	英国	2019	—	10.5%	—
15	ピーパリンマキ陸上風力	フィンランド	2020	21.1	15.0%	3.2
16	アピエータ陸上風力	米国	2020	52.5	48.5%	25.5
17	メドコ・関西合弁会社火力	インドネシア	2021	22.8	40.0%	9.1
18	アラヤルヴィ陸上風力	フィンランド	2021	22.1	49.0%	10.8
19	ボークムリフグランド 3 洋上風力	ドイツ	2022	91.3	3.5%	3.2
20	ゴリアテヴィンド浮体式洋上風力	ノルウェー	2023	(7.5)	20.0%	(1.5)
21	ヴァインダンカー洋上風力	ドイツ	2025	31.5	49.0%	15.4
22	シンプリー・ブルー・エナジー	アイルランド	2025	-	-	-
23	ワワ揚水	フィリピン	2026	60.0	12.2%	7.3

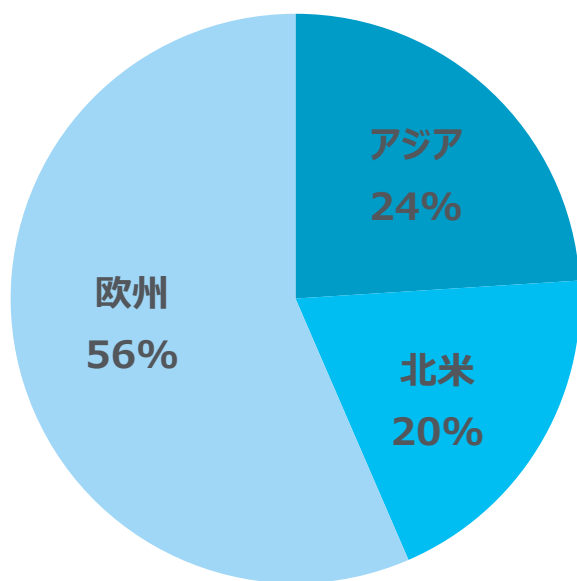
※2026.8末時点

- 電気事業を中核として海外エネルギー事業を展開し、**現地への経済・環境価値の提供と、グループの安定的な収益基盤の構築を両立**する。
- 案件の特性、リスク・リターン、当社の強みを見極め、**最適な段階・手法で参画**。
海外ポートフォリオの収益性向上に向け、案件開発力・リスク対応力を継続的に高度化。

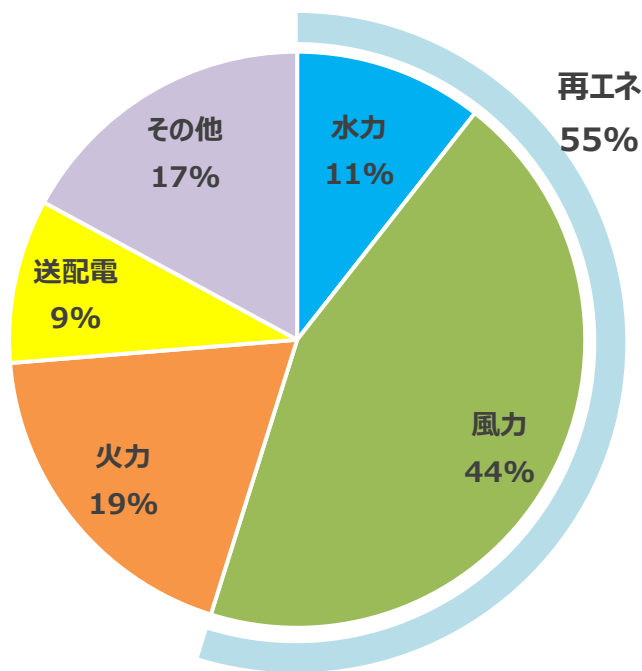


- アジア・北米・欧州において、再エネを中心に発電から送配電まで幅広い事業に投資
- 長期売電契約等を活用することにより、**安定的な収益を確保**

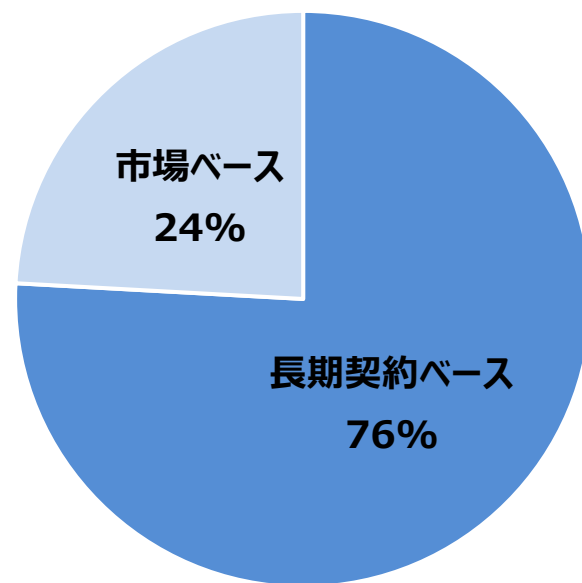
エリア別



投資対象別



収益安定性



- 1. 海外エネルギー事業の目指す姿** P. 2
 - 資本効率を重視した規律ある成長投資
 - 財務計画

- 2. 事業概要** P. 6
 - 当社海外エネルギー事業の歩み
 - プロジェクト一覧
 - コンセプト
 - 事業ポートフォリオ

- 3. 経営計画の達成に向けて** P. 11
 - 事業戦略
 - 具体施策

2040年
目指す姿

海外におけるEX（エネルギー・トランスフォーメーション）の主要プレイヤーへ

2026-28年度
経営計画

海外エネルギー分野の成長投資

1,000億円

事業利益（年度平均）

200億円 + α

ROIC（年度平均）

4.5% + α

目指す姿に向けた戦略軸

向こう3年間の具体施策

1

安定収益基盤を土台に 事業規模を拡大

既存資産の安定収益を確保し、
成長投資を着実に積み上げる

- ・既存ポートフォリオのアセットマネジメントを強化し、利益の安定化を図る
- ・再エネ・蓄電池・送配電を中心に新規投資を推進

2

投資規律と資産入替で 資本効率を向上

収益性・リスク・事業期間を見極め、
より強いポートフォリオへ転換する

- ・ポートフォリオへの短中長期影響を踏まえた厳格な投資基準で新規案件を選別
- ・戦略的な資産入替により、早期収益獲得を実現し、高収益案件へ資本を再配分

3

現地パートナーとの協業で 案件創出力を強化

制度・商慣行・市場環境に関する
現地知見を取り込む

- ・イベルドロウ、メドコ等との協業を深め、優良案件へのアクセスを拡大
- ・海外拠点・投資先事業会社のネットワークを活用し、新たなパートナーを開拓

4

自主開発力を蓄積し、トップ ランナーのプレゼンスを確立

国家レベルの構想に早期参画し、
先行者としての地位を確立する

- ・AZECの枠組みで、インドネシアの島間連系送電線整備を支援。国内の送配電知見を活かし、構想支援から事業化検討へ関与を深める

- 当該国・地域での事業環境に精通した「欧州のイベルドロウ」、「インドネシアのメドコ」等のエネルギー企業と関係を構築。
- こうした**関係を活かして厳選した新規投資案件を探索**する一方、海外拠点や投資先事業会社における活動等を通じて、**現地知見を有するパートナーの更なる拡充にも取り組んでいく。**

スペイン大手電力会社イベルドロウとの戦略的協業に関する覚書の締結

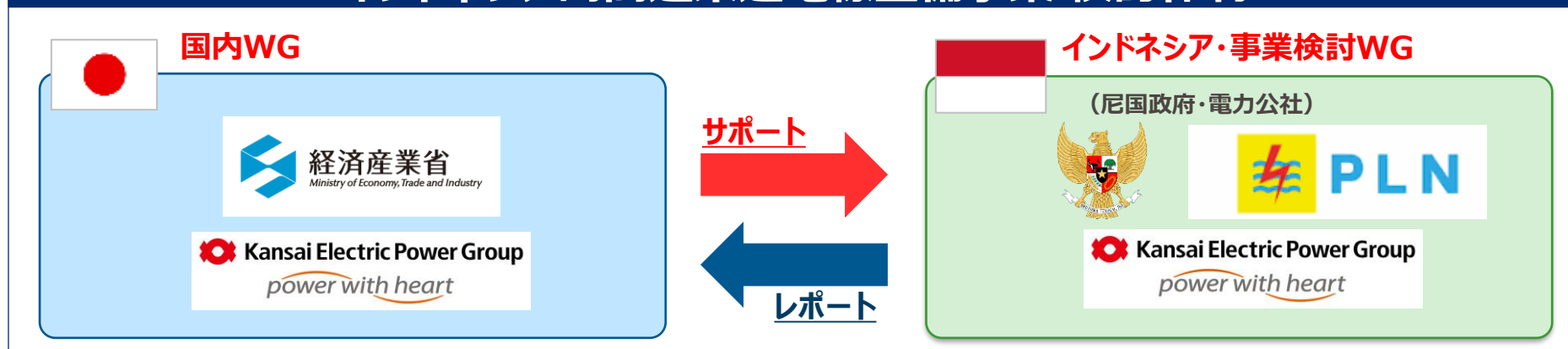
- イベルドロウと、ドイツのヴィンダンカー洋上風力、英国のエレクトリシティ・ノースウエスト配電で協業中。
- 2025年2月21日、覚書を締結。再エネ・送配電事業をはじめ様々な領域において、戦略的なパートナーシップを構築することで両社の強みを最大限発揮し、グローバルな事業推進をさらに加速していく。



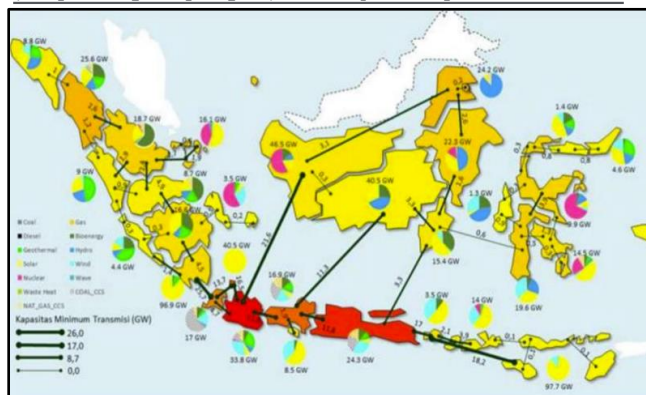
覚書調印式 左：イベルドロウ イグナシオ・ガラン会長
右：関西電力 執行役常務 グローバルEX事業本部長 桑原 徹

- 国内でこれまで培ってきた**エネルギー会社としての強み**を活かして、**国家レベルのエネルギー関連投資の仕組み作りから参画**することで、中長期的な収益への貢献とトップランナーのプレゼンスを確立する。
- 現在、AZEC（アジア・ゼロエミッション共同体）の枠組みで、インドネシア電力公社PLNに対して、島間連系送電線整備による脱炭素化の推進について、サポートしている。

インドネシア島間連系送電線整備事業 検討体制



州間（島間）連系線整備イメージ



参照元：RUKN2023、2060 Scenario

（例）スマトラ-ジャワ連系線プロジェクト

スマトラ島とジャワ島を結ぶ、島間連系線プロジェクト

<設備概要（暫定）>

設備容量：2.6GW

電圧階級：320kV

交直変換設備：2ヶ所

ルート長：直流海底 約40km + 直流架空 約480km

- **黒部第四発電所（くろよん）** 建設など国内で培った技術・ノウハウを活用し、第2の「くろよん」と呼ばれる巨大ダムをラオスで建設。地域の発展や脱炭素社会の実現に貢献。





本資料には、将来の業績および計画に関する記述が含まれております。こうした記述は将来の業績および計画を保証するものではなく、リスクと不確実性を内包するものです。将来の業績および計画は、経営環境に関する前提条件の変化などに伴い変化することにご留意ください

- 現地事情に精通した有力財閥プライムインフラ社と協業（2026年7月参画）
- 国内電気事業で培ってきた揚水の知見・経験を活かし、建設・運用面でプロジェクトに貢献。

場所	フィリピン共和国ルソン島南部（首都マニラから東に約42km）		
発電設備	出力600MW（300MW×2基）、可変速揚水発電方式		
収入スキーム	再エネ導入促進制度“GEAP”（Green Energy Auction Program）による20年長期固定収入		
運転開始	2030年予定		
出資者	当社	:	12.18%
	プライム・インフラストラクチャー・キャピタル社	:	51.13%
	ファースト・ジェン社	:	24.69%
	その他	:	12.00%

